

## 生徒会長

佐々木可奈子

秋田県・18歳・高校生

中学の入学式の日、私は初めて恋をしました。新入生入場のため、廊下に並んでいる私にぶつかったあなたは、一言ごめんと言ひ、薄い本のようなものを携え急いで走り去って行きました。その瞬間、胸の鼓動がフル回転し、次の瞬間には体全体にそのドキドキが伝わったのです。

あの時のうれしくて、せつないような不思議な気持ちははじめてでした。私に向かい一言ごめんと言った時のあなたの笑顔は、今でもはっきり覚えています。

式が始まって、私はもう一度あなたに会いたい、けど、この大勢の生徒の中から一体どうやったらあなたを見つけられるのかと、そればかりでした。でも次の瞬間、私は見つけてしまったのです。私達新入生に向かい、歓迎のあいさつをする生徒会長、その人こそあなただったのですね。余りにも早くあなたを見つけてしまった戸惑いと、それ以上に心が何かで満たされていくのを感じました。

それからの私は何でも前向きに考え、行動できるようになりました。世界がずっとキレイに見えるようになりました。生徒会に入ったお陰で、あなたとお話できるようになりました。あなたは思った通りの優しい人で、あなたの周りにはいつも自然と人が集まってきました。あなたが同学年の女の人と楽しみに話しているのを見て、もう少し早く生まれていたらなどと考えたりもしました。

私はあなたの前ではいつも無理して、背伸びしていたように思います。そんな私に気付いて優しく気遣ってくれるあなたの優しさが、何とも言えずせつなくて、さびしく感じられたものです。

卒業式の日、答辞を読むあなたの涙声を聞いた瞬間、のどに熱いものがのぼり涙が止まらなくなったのを覚えています。先輩、いろいろありがとう。私、もう少し大人になって、もう少し自分に自信がついたら、きっとあなたに会いに行こうと思います。

※その後、その人に会いに行くことはできませんでしたが、あの時の経験は私を精神的に成長させてくれたものだと思って感謝しています。